

A-91 低栄養地域における妊産婦の栄養調査報告(第2報)
岩手大教育 鷹箭テル ○及川桂子 赤沢典子

目的: 岩手県岩泉地方は、乳児死亡率の高い地域として有名であり、その原因は妊産婦の栄養摂取、離乳食の与え方および医療行政の貧困にあるのではないかといわれている。そこで国立栄養研究所、岩手医大と共同研究を行ない、妊産婦の栄養摂取と血液成分、毛髪成分および生下時体重との相関をみることを目的とした。

方法: 妊婦については昭和44年5月~46年4月まで、産婦については昭和46年5月~7月まで、毎月1回現地で平日3日間の食事の聴取調査を行った。それを国民栄養調査の集計方法にもとづいて検討した。またその際妊産婦の後頭部から毛髪0.1gを採毛し、3N塩酸で分解して、シスチンを隣タンクステン酸法で定量した。血清アミノ酸の測定はアミノ酸分析計を使用して、国立栄養研究所において行った。また分析法はハブカセルロース・アセテート分割法、血清蛋白は屈折法、血色素量はシアンメトヘモグロビン法、血清鉄は血清鉄直析法でそれぞれ分析した。

対象は妊婦は延約2000人、産婦は延約120人であった。

結果: 栄養摂取と血中アミノ酸含量および毛髪シスチン含量との関係とみたが、動物性蛋白質のとり方とは無関係に血中の必須アミノ酸は常に一定であった。ただ毛髪中シスチン含量においては動物性蛋白質摂取量の影響がみられた。また熱量摂取量は妊娠後半期で約2000 Cal、産婦で約2300 Calといずれも所要量と大巾に下回っていた。しかしこの熱量不足により生下時体重や妊産婦の健康に及ぼした影響がみられなかったことから熱量所要量の再検討が必要と思われた。